

ロゲイニングに見られるナビゲーションスポーツの普及や興隆をオリエンテーリングにどう活かすのか？その知恵がオリエンテーリング界に問われている。

2013年5月19日(日) 静岡県熱海市
フォトログイニング NIPPON 熱海



日本でも珍しい横穴式源泉。熱海らしいポイントの一つだ

地域起こしの切り札

高速道路を管理する Nexco 中日本が今シーズン企画実施しているのが、フォトログイニング NIPPON だ

(URL: <http://photorogaining.jp/>)。

中部地区で5月19日に熱海、5月26日に郡上市での大会が終了し、この後、いずれも静岡県の下田市と島田市で開催される。熱海では、短い告知期間にも関わらず400余人の参加者があった。

主管は、フォトログイニングで各地に確実なファンを増やしている TrekNao の伊藤奈緒さん。オリエンテーリング界からも多くの助っ人が運営に参加し、このイベントを成功に導いた。

熱海と言えば温泉街。東京からも新幹線で至近の距離にある。しかし、伝統的な温泉旅行が衰退し、町並みの整備やイベントなど、あの手この手で観光客集めを行っている。今回のロゲイニングもその一環だ。

チェックポイントの位置は熱海ならではの足湯や源泉、さらには金色夜叉で有名な「お宮の松」。ロゲイニングを楽しみながら、温泉街熱海を堪能できるイベントだ。

激戦の混合

私と田島利佳は、TEAM 阿闍梨の混合チームとして招待を受けていた。坂の街熱海、狭い市街地。5時間のコースが組めるのだろうか。伊東線や船で渡る初島もエリア？レース前の予想の楽しさはロゲイニングならではの。

400人を超える参加者を集めたこの大会だが、混合組が激戦を極めた。混合チームの上位常連であるチーム遠足の渡辺・大澤チーム、オリエンティアの木暮・円香チームに加えて、3月の大島ロゲイニングで帝王柳下とペアを組んでダントツの1位になった市岡さんが参戦した。

市岡さん曰く、大島のロゲイニングでナビゲーションの奥深さを実感し、自分はまだまだ赤ん坊だと感じた。多くの混合強豪チームが参加するこの大会で、実力を試すべくできる限りの準備をした。また最高のパートナーとしてトレラン界の女王間瀬ちがやさんをリクルート。市岡さん自身、トライアスロンのシニアで全日本クラスでの活躍、東京トレイルチャレンジというトレラン大会 100km の大会では2連覇というアウトドアアスリート。パートナーの間瀬さんも、富山から静岡を縦走するトランスジャパンの完走者にして、チャンピオン経験者というスーパーペアだ。

その結果、男子組も含めた全てのクラスの中でダントツの得点をたたき出した。

TEAM 阿闍梨も招待チームとしての意地を見せるべく、彼らとは異なる作戦で攻略するも、田島の体力と村越の意気込みのミスマッチが敗因となった。

点数を伸ばすべく取りに行った26点で時間を大幅に消費し、28点と34点をあきらめる結果となった。激戦の中で競いあって見ると、自分たちの至らなさに気づく。それを乗り越えようという意欲も沸く。結果として4位という残念な結果に終わった。

レースが終わった、市岡チームと一緒に風呂にいった。風呂から出て寛いでいる時間に、市岡さんから、「このポイント間は、村越さんならどういきますか？」「ここはどうですか？」の質問攻めを受け、負けたこと以上に市岡さんの勝負に対する真摯な態度に衝撃を受けた。ロゲイニングには、スポーツ

の発展に欠かせない間口の広さがあった。同じように不可欠な、真剣な競い合いを目指すチームが増えている。初期のころからこの種目に運営・参加ともに関わってきたものとして、嬉しい発見であった。

レクからスポーツへ

この波を生かす

ロゲイニングは、オリエンテーリングと違うだろうか？答えはイエスでもありノーでもある。しかし、スポーツの発展の中でその本質を変えたスポーツは、トライアスロンをはじめいくらかもある。また、ソフトバレーのように、競技スポーツの団体が、競技色の弱い種目で普及を図る例も少なくない。

オリエンテーリングの過去を振り返っても、現代の競技オリエンテーリングの基礎を築いた世代の多くは、今ではそれとは一線を画しているレクリエショナルな徒歩オリエンテーリングでオリエンテーリングを始めた。

ロゲイニングに見られるナビゲーションスポーツの普及や興隆をオリエンテーリングにどう活かすのか？その知恵がオリエンテーリング界に問われている。



公共交通としては伊東線と初島フェリーが利用可能だった。スタート約30分後に来宮駅を出る伊東線は、ご覧のように「ロゲイニング列車」の趣だ

(村越 真)